

#### 4 サウンディングの結果概要

##### A事業者

- ・現敷地内の事業は工事期間が長くなり、コスト高となるため、別敷地の方が良いと思う。
- ・現敷地では来庁者用の駐車場を別途準備する必要がある。
- ・事業手法の提案:デザインビルド方式がもっとも良く、次は従来方式が良いと思う。PFI方式は手続きやVFM<sup>※</sup>算定により約1年検討期間が長くなる。また、庁舎用途としてVFMの効果が低い。

※VFM:Value for Money:支払い(Money)に対して最も価値の高いサービス(Value)を供給する考え方

- ・構造は免震構造を提案。

##### B事業者

- ・現敷地での建設となれば、仮設コストが大きくなるため、別敷地(中村グラウンド)が良いと思う。
- ・駐車場の確保は立体駐車場という方法もある。
- ・能登半島地震を受け、鉄筋コンクリート造が良いと思うが、コストは鉄骨造に比べ高い。
- ・ZEBなど環境に特化するとイニシャルコストが高くなる。

##### C事業者

- ・現敷地での建設となれば、仮設コストが大きくなるため、別敷地(中村グラウンド)が良いと思う。  
また、現敷地を売却して庁舎整備の財源としても良い。
- ・文化会館周辺に建設の方がイメージが良い。
- ・木造が良いと思う。
- ・敷地内に道の駅や飲食店を設置することにより避難施設の防災面において備蓄が出来る。
- ・浸水対策としては、止水板等で良いと思う。また、車両については立体駐車場が良い。
- ・全機能を集めるのではなく、支所機能の充実でも良いと思う。
- ・地元の中小企業へも配慮してほしい。

##### D事業者

- ・仮設庁舎が不要となるため、別敷地が良いと思う。(仮設庁舎なしで現敷地の建設は困難と考える)
- ・事業手法についてはリース方式を提案したい。公募時に事業手法を絞らない考え方もあり得る。
- ・公用車の適正台数を把握し、EVを導入し、BCP対策とすることを提案。
- ・ZEB化については、コスト比較の上、グレード選定を提案。

#### E事業者

- ・PPP活用手法であるデザインビルド方式やデザインビルドオペレーション方式、リース方式が良いと思う。PFI方式は時間を要す。
- ・デザインビルド方式、リース方式によるイニシャルコストの削減根拠は、公共発注と民間発注によるコストの差。有利な起債活用ではDB、財源支出平準化ではリース、また組み合わせも可能。
- ・現敷地における嵩上げは可能であるが、コスト増の要因があり、コスト面では別敷地が良いと考える。
- ・コストを削減するには延床面積の削減が必要であり、必要面積を熟慮すべき。  
また、文書総量の削減も効果的である。
- ・ZEBは費用対効果により検討が必要。
- ・独立採算の飲食店は、新庁舎内では難しいと思う。

#### F事業者

- ・建設費以外の附随コストに対し提案が可能。
- ・新庁舎事業における「オフィス環境計画」の取組みは、働き方改革と併せて実施することが効率的である、当初は建設部署が担当し、その後の維持運用は文書担当部署へ引き継ぎする場合が多い。
- ・現状把握が伴わないまま事業が進行した場合、什器購入等でやり直し等が発生する事例あり。

#### G事業者

- ・脱炭素化とBCP対策（レジリエンス）の実現に向けた提案。  
（省エネと創エネによるエネルギー消費量収支ゼロを目指した「ZEB化」、  
BCP対策も含めた「太陽光発電設備及び蓄電池の導入」「EV導入」等。）
- ・国は対応可能な公共施設の50%以上に太陽発電を設置することを推奨しているため、  
イニシャルコストが不要なPPAサービスを紹介。
- ・既存公共施設を含めたBCP対策（レジリエンス）の可能性。

#### H事業者

- ・売店機能の提案。就業者数により提案内容を検討する。
- ・建物内、若しくは敷地内の別建物設置による形態は考えられるが、現規模による設置は難しいと思う。
- ・建設場所によっては、別棟による検討も可能と考える。